

令和 2 年度 南区地域福祉アクションプラン（地区別計画）

進行管理表

- ① 新飯田地区…P1
- ② 茨曾根地区…P2
- ③ 庄瀬地区……P3
- ④ 小林地区……P4
- ⑤ 臼井地区……P5
- ⑥ 大郷地区……P6
- ⑦ 鷲巻地区……P7
- ⑧ 根岸地区……P8
- ⑨ 大通地区……P9
- ⑩ 白根地区……P10
- ⑪ 味方地区……P11
- ⑫ 月潟地区……P12

笑顔いっぱい「おたがい様らて」と心が通いあう新飯田

確認事項	評価
地域の関係者で共有しよう (地域の関係者で、地域の課題、取り組みに内容等共有されていますか)	○
引継ぎをきちんとしよう (役員の交代等、計画について引継ぎがされていますか)	○
住民にきちんと伝える機会をつくろう (地域の住民に計画の進捗状況、次年度の取り組みなどが伝えられていますか)	○

*それぞれの項目ごとにチェック	評価
確実に行われた場合	○
一部、行われなかった場合	△
ほとんど行われなかった場合	×

推進目標に対する評価	評価
期待される取組みの90%以上達成	A
期待される取組みの75%以上達成	B
期待される取組みの50%以上達成	C
期待される取組みに50%未満	D

推進目標 (区の基本目標との関連)	実施している取組み 期待される取組み
1. 誰にとっても安心して安全に暮らせる地域づくり (安心して子育てできるまち・障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち・高齢者が安心して暮らせるまち)	
○各家庭で災害時の避難について話し合うようにする	<ul style="list-style-type: none"> 自主防災会による避難訓練の実施 避難所の耐震性の見直し → 耐震性は確認済 自治会単位での話し合い 避難所が手狭なため、障がい者や高齢者にとっても安全な避難所の設置場所についての検討 もっと避難所が必要。水害の時は2階へ避難する。民間のビルを借りるようになる(南部でそのような動きがあるところがある) 道の駅をつくって、避難所にしようと検討し、行政に交渉したが、話は進んでいない。
○誰にとっても安全に避難できるよう、避難所の安全について検討を続ける	<ul style="list-style-type: none"> 隣接市(三条・燕・加茂)との協力体制の構築 各自治会が要支援者の名簿をもとに人数や状況を収集する訓練を実施 避難体制づくりの明確化 自治会班長による見守りなどの訓練、細かい話し合い、障がい者や高齢者を対象としたアンケートの実施
○地域ぐるみで防犯に取り組む(子どもの安全・見守りも含めて)	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全協会による登下校時の街頭指導(春・秋) 自治協議会長、青少協による防犯パトロール 一人暮らしや高齢者世帯のゴミ出しや見守り 認知症の方々をあたたく見守れる地域づくり 児童の登下校時の見守り等を行う 回覧板や配布物は声をかけるようにする
○防犯面からの環境整備を図るための検討を続ける	<ul style="list-style-type: none"> 公園維持管理協議会による公園の整備、トイレの清掃活動(月1回) 防犯の広報に、防災無線を有効活用できるよう働きかける
2. 一人ひとりが違うことを分かりあおう (私たちが支え合い、助けあうまち)	
○世代・立場の異なる人同士が一緒に学ぶ・遊ぶ機会として、勉強会・ワークショップ・講演会等を企画する	<ul style="list-style-type: none"> ウォーキング、コンサート、カーリング教室、文化講演会、元気アップ講座、小学校地区合同運動会、ソフトボール大会、カレンダー作り、読み聞かせ、キャンドルづくり、ふるさとキャンプ、ハロウィンイベント等々 保健会による健康づくり後援会、ふれあい茶の間 敬老会、新飯田まつり、乳幼児をもつママたち交流、 各種サークル活動や行事の一覧表を作成し、PRを行う 誰もが気軽に集まれる場が必要 市日では、肉屋さんなど店先に椅子があり、集まる場所がある 空き家の活用 地域の茶の間は、地域生活センターとシルバー乙女、天狗の会 地域の行事に男性の参加が少ないため、働きかけが必要
○地域の人が集まる場をつくり、お互いを知る機会を増やす	
3. みんなの「力」が発揮できる地域にしよう (私たちが支えあい、助けあうまち)	
○高齢者の知恵を、子どもたちへ伝承する	<ul style="list-style-type: none"> 伝統芸能伝承の会(芸能教室) 世代間交流で、昔遊びや笹団子づくり等とおして高齢者の知恵を教える 子どもみこし、天神様、地藏様などの祭り 農業体験、みそづくり体験など 世代間交流の場が引き続きあると良い
○地域の人「経験・力」を生かせるよう工夫する	<ul style="list-style-type: none"> 低学年と高学年など、対象別に交流できると良い 継続出来るよう、スタッフやボランティアの発掘・育成が必要

27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	取組み内容
B	B	B	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 当初計画していた自主防災訓練はコロナ禍で実施することはできなかったが、規模を縮小し自治会長による緊急時の連絡網や連絡手段の確認を行った。その後情報交換を実施した。 自治会単位での話し合いを実施している。 てんぐの会(地域の茶の間)で「おばあちゃんの防災教室」を実施した。 福祉施設に避難所の設置について依頼をしているため、いつでも連携できる体制はできている。警察とも避難について連携できる体制である。
D	D	B	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> アンケートは実施済み 要援護者(高齢者・障がい者など)の状況を自治会長が把握している。必要に応じて、消防署と情報共有し連携している。 民生委員と自治会長が連携して見守り訪問する機会を今後検討したほうが良い。 要援護者について、確認が必要な自治会もある。
B	B	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童の登下校の見守り活動は積極的に行っている。(青少協、交通安全協会等)
A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 公園、トイレの清掃活動を定期的実施している。
27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	
A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全協会の男性が地域の茶の間に参加し、毎回、交通安全の呼びかけを行っている。 コロナ禍においても、工夫しながら行事を実施している。 地域の茶の間に男性の参加は少ないが、様々な行事には男性の参加が多く、年々増加している。
27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	
A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ミニ世代間交流(お寺であそぼう)の実施をした。 中学生のボランティアが増えている。 (行事等の開催時には、中学生への呼びかけを行っているが、多くの中学生が参加してくれている。年々ボランティア精神が高まっているように感じている。)

笑顔がっとう 明るい茨管根

確認事項	評価
地域の関係者で共有しよう (地域の関係者で、地域の課題、取り組み内容等共有されていますか)	○
引継ぎをきちんとしよう (役員の交代等、計画について引継ぎがされていますか)	○
住民にきちんと伝える機会をつくろう (地域の住民に計画の進捗状況、次年度の取り組みなどが伝えられていますか)	○

*それぞれの項目ごとでチェック	評価
確実に行われた場合	○
一部、行われなかった場合	△
ほとんど行われなかった場合	×

推進目標に対する評価	評価
期待される取組みの90%以上達成	A
期待される取組みの75%以上達成	B
期待される取組みの50%以上達成	C
期待される取組みに50%未満	D

推進目標 (区の基本目標との関連)	実施している取組み 期待される取組み
1. 高齢者の楽しい地域づくり (安心して子育てできるまち・障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち・高齢者が安心して暮らせるまち)	
○老人クラブの活動を充実させる、老人クラブを増やす	<ul style="list-style-type: none"> 清水・上茨～皆老会、道湯・新村～老人会、下茨～五九朗会 畑づくり、神社清掃、日帰り旅行、収穫祭等、活発に活動 クラブが出来ていない地区への取り組み 度は取組みなし、丸湯は班会、東萱場は茶の間 リーダーの育成、役員体制の検討 老人クラブ活動の充実、活性化 仲間づくりから発展させる 老人クラブに限らず、サロンやグループなどの自主的な会の活用
○地域の茶の間をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 清水、上茨、丸湯、東萱場、道湯、新村では順調に開催 庚地域では「中途半端会」開催 下茨地域での新規開催 お茶の間だよりの発行 茶の間の取組みを皆に周知しつつ次回の開催日を案内 他のお茶の間との情報交換 お茶の間で活用できる資源の仲介役が必要
○閉じこもっている人を誘い出す	<ul style="list-style-type: none"> 地域での声かけ、訪問事業 高齢者や身体的に不自由な方への対応検討
2. 子どもたちの安全な地域づくり～セーフティスタッフ活動に取組もう～ (安心して子育てできるまち)	
○下校時に合わせて大人が気を配る	<ul style="list-style-type: none"> 地区の皆さんが気にかけるようになった 子どもたちが挨拶をする。中高生になっても挨拶する習慣 ながら活動が定着した 各地域から2名ずつ交通安全委員を選出した 下校時の見守りに防災無線の有効活用についての働きかけ(できないと行政より回答) 防災無線は、地域生活センター、東萱場、清水の3か所(丸湯にはない)。地区ごとにプログラミングができるが、要望が挙がってから対応を検討する
○セーフティスタッフ活動に取組む	<ul style="list-style-type: none"> 地域では6名のセーフティスタッフが発見し、オレンジのジャンパーで活動中 セーフティスタッフの活動に、交通安全協会が協力している 白南中では環境安全委員長が、また茨管根小学校はPTA3役がセーフティスタッフとして活動している 地区の危険ヶ所の把握(マップの作成) 全自治会での活動の周知とスタッフの募集を行う 学校と地域のセーフティスタッフの交流、及び連携が必要 地区の危険ヶ所(通学路)の見直し(マップの作成等)
○子どもにも、地区の取り組みを伝える	<ul style="list-style-type: none"> 学校の朝会で顔見せを行い、子どもたちに活動を伝えることができた 顔の見える関係をつくる(多世代交流や茨管根応援団の活用など) 誰もが集まれる大きな集まり(イベント)を行う 27年度に児童館がオープン～高齢者もいっしょに「参加型イベント」の実施

27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	取組み内容
C	C	B	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 老人クラブの活動は全くできなかったが、役員会のみ開催した。(道湯) ※老人会は会って交流することが中心なのに、それができなかった。 皆老会は輪投げの練習を定期的に行い、大会にも参加をした。 五九朗会は毎月会う機会を作った。畑はこんにやくを育て、こんにやくづくりをした。それをもとに交流会を実施した。 加入していない70代が多い。90代の会員もいる中で、年齢差が大きく、運営の工夫が必要と感じている。 コロナ禍で会員増強活動ができなかった。亡くなった分だけ減った。 新村は輪投げだけはしていた。しかし、お茶をペットボトル、布巾をペーパータオルを活用するなどの工夫が必要である。
B	B	B	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 清水、上茨、下茨、新村、道湯、東萱場は茶の間を開催した。丸湯は、今年開催していないが、みんなに会いたいと集会所に行き、カギが閉まっていたので帰ったという人もいた。 清水は5月と1月のみ休んだだけで、コロナ禍に注意しながら忘年会も開催した。みんなに会うことを楽しみにしている。欲求がたまっている。 東萱場の茶の間は、会場まで行けない方がいる。現在は何人かを迎えるに持って対応しているが、都合が悪い時もあるので、検討しなければならない課題である。 1カ月に1回は「元気だったかね」と会うことを楽しみにしている。 茶の間に行きたい気持ちと行けない気持ちと複雑な気持ちがある。 道湯は順調に開催しているが、人数が減っている。どう継続していくか、今後の課題である。
A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 地区社協で自治会長と共に配食訪問をした。コロナ禍対応として、パンフと一緒に渡すなど工夫をしている。 地域とコミュニケーションがとれていない閉じこもりの人の情報は少ない。 地域の民生委員が一所懸命に訪問、相談等取り組んでいる。 困っている世帯に対し、これから様々な取り組みを検討する必要がある。(今回の大雪で、さらに困りごとが見えてきた)
27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	取組み内容
A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 見守り隊(各地区から学校へ登録している)は、入学時期や交通安全週間時を中心に活動をしている。 度は、逐次一所懸命活動している。 道湯等地域によっては、地域の店の人が自発的に見守っている。 農作業等仕事をしながら、注意深く見守っている人が多い。
A	A	A	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 見守り隊は学校が把握している。地域と共有できるとよい。 通学路マップは、2年前に完成し活用している。 東萱場の中学生は冬期間のみ乗合タクシーで登校している。 今年度の大雪で小学校が一日休校した。歩道の除雪が間に合わず、バスも走らない状況だった。
A	A	A	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 下茨は子供たちの居場所づくりの一環として、老人会と子供たちの多世代交流会を実施した。 榎太鼓は、練習しても大会等が実施されないこともあり休止とした。 コロナ禍で様々な活動が制限された。 小学校で干し柿づくりを子供たちと地域で一緒になって作った。 稲刈り活動は行ったが、コロナ禍もあり機械刈りが中心だった。機械の届かない端のみ5年生児童が手作業で体験をした。 1月開催のどんど焼きは準備(とばあみ)から、子供たちに関わってもらった。

声かけ会 話しあう 助け合う 沢山の合(愛)がある 庄瀬

確認事項	評価
地域の関係者で共有しよう (地域の関係者で、地域の課題、取り組みに内容等共有されていますか)	△
引継ぎをきちんとしよう (役員交代等、計画について引継ぎがされていますか)	△
住民にきちんと伝える機会をつくろう (地域の住民に計画の進捗状況、次年度の取り組みなどが伝えられていますか)	○

*それぞれの項目ごとでチェック	評価
確実に行われた場合	○
一部、行われなかった場合	△
ほとんど行われなかった場合	×

推進目標に対する評価	評価
期待される取組みの90%以上達成	A
期待される取組みの75%以上達成	B
期待される取組みの50%以上達成	C
期待される取組みに50%未満	D

推進目標 (区の基本目標との関連)	実施している取組み 期待される取組み
----------------------	-----------------------

1. みんなの居場所づくり～誰もがいつでも気軽に集える場～ (安心して子育てできるまち・障がいのあるひともない人も安心して暮らせるまち・高齢者が安心して暮らせるまち)	
○歩いて来られる場所に集いの場 (地域の茶の間)をつくるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ・菱潟、次郎右門興野、新道島クラブ、親友会、しなのがわ工房ままや、じじ会など ・真木や上八枚など定期的な集まりがある。、ゆうわ会(青年会) ・集落で集まろうにも地形的に細長く、集まるのが難しい面がある
	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会単位での話し合い ・子育て中の親世代の集まる場 ・空き家を改修し、お茶の間にする ・避難所が手狭なため、障がい者や高齢者にとっても安全な避難所の設置場所についての検討
○男性・女性・障がい者・高齢者・子ども・・・の交流の機会をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会、子ども会中心のお楽しみ会 ・夏祭り(子ども神輿)、音楽会(お寺コンサート)、ママさんバレー、野球リーグ戦(年3回)、卓球、カーリング
	<ul style="list-style-type: none"> ・若者世代が中心となって、地域に声掛け ・地域生活センターロビーを活用した交流の場(誰でも利用できる居場所づくり)
○忙しい地域からも参加できる工夫を検討する	<ul style="list-style-type: none"> ・春まつりやライトアップや写真コンテスト(小学校文化祭にて開催。庄瀬の良いところの写真をカレンダーとして作成) ・庄瀬農村公園祭り→庄瀬まつり、スポーツ大会、花火大会等の総合プログラム ・整地をして桜をもっと植え、盛り上げたい
○閉じこもってしまう方々を既存の事業(見守り事業、安否確認等)に誘う、声かけ、情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・健生病院班会、老人会(2班)の活動 ・高齢者同士が声掛け(見守り、安否確認等) ・近所のお年寄りが茶飲みをやっている。ゴミ出しを協力してくれる人がある。 ・庄瀬市(1・6)寄り合い場所(八百屋2軒)送迎や配達をしてくれる(駐在さんも来る) ・孤立している人はいないが、拒否をする人がある。 ・新しいカタチの老人会の構想(将棋の会・ピンポンの会) ・老人会の名称がネック。
○集まる場を増やして、情報交換及びボランティア活動の場とする	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会で高齢者の集まり ・農村公園祭り、春まつり、サザンフラワーロード作戦による球根・花植え ・長寿を祝う会、芸能祭、防災訓練 ・クリーン作戦、空き缶ひろい ・イベントなど様々な企画でやっているがまだまだ改善点はある ・声かけ、安否確認などのボランティアを増やす ・地域交流や世代交流の場の拡充

27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	取組み内容
D	D	C	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブ「庄瀬っ子」の運営を地域が活発に取り組んでいる。 ・地域の茶の間は再開された。班会の活動も年2～3回実施している。 ・ままや(週1)の活動は、食事提供、茶の間等を実施し、生活支援につながっている。 ・もくばは11月から再開された。広報誌もコミ協と連携し作成している。 ・若い人たちが集まってマスク作りも行った。
						<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化に伴い、茶の間の参加者は減少している。 ・コロナ禍ではあるが、工夫しながら活動がされた。
C	C	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・3地区公民館交流事業(バレーボール)を実施した。 ・みんなの気持ちの一つにコミュニティを続けようと団結の象徴として、花火及び一斉祈祷(寺、神社、各家庭)を行った。
						<ul style="list-style-type: none"> ・例年通りの行事ができなかったが、工夫しながら行った。 ・子どもがいない自治会もあり、次世代をどう考えるか、大切な課題である。
A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の文化祭では、懐かしい思い出の写真を提供した。(新たな取り組み) ・植栽した桜の手入れ作業を実施し、クリスマスにはイルミネーションの実施をした。(商工会)
B	B	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員が見守り・安否確認に取り組んだ。 ・ひとり世帯高齢者の配食活動を実施した。 ・高齢者同士が声かけし合っている。 ・自治会長が地域の状況(要支援者等)を把握している。(強みである)
B	B	B	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を実施した。 ・集まる機会や場が多い。 ・挨拶等の声かけが普段から行われている。セーフティスタッフ活動を実施した。
						<ul style="list-style-type: none"> ・若い人の参画が難しい。将来的に事業を継続できるか課題

2. 一人ひとりが違うことを分かりあおう (私たちが支えあい、助けあうまち)	
○子どもたちの下校時の安全を地域で守る	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の声かけ見守りの実施 ・小学校であいさつ運動実施 ・民生委員による運動
	<ul style="list-style-type: none"> ・セーフティスタッフの確保と拡充 ・下校時間帯の見守り体制
○災害時の支援体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織 ・高齢者同士が声かけあえる地域 ・隣近所で見守りができる体制 ・日中、残っている人で支え合える体制づくり ・災害時、安否確認ができる体制づくり

27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	取組み内容
B	B	B	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の声かけ見守り活動実施 ・犬の散歩等「ながら見守り」を実施している。
A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・避難行動要支援者に対する支援の確認、訓練の実施をした。 ・自治会ごとに防災訓練ができるとよい。(体制づくり等) コロナ禍で今年度はできなかったため、次年度自治会長説明会を開催し、検討したい。

声かけ合い 心をつなぐ 小林地区

確認事項	評価
地域の関係者で共有しよう (地域の関係者で、地域の課題、取り組んだ内容等共有されていますか)	○
引継ぎをきちんとしよう (役員の交代等、計画について引継ぎがされていますか)	△
住民にきちんと伝える機会をつくろう (地域の住民に計画の進捗状況、次年度の取り組みなどが伝えられていますか)	○

*それぞれの項目ごとにチェック	評価
確実に行われた場合	○
一部、行われなかった場合	△
ほとんど行われなかった場合	×

推進目標に対する評価	評価
期待される取り組みの90%以上達成	A
期待される取り組みの75%以上達成	B
期待される取り組みの50%以上達成	C
期待される取り組みに50%未満	D

推進目標 (区の基本目標との関連)	実施している取り組み 期待される取り組み
1. 高齢者・障がい者・子どもがつながりを感じられる交流の機会を充実させる (安心して子育てできるまち・障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち・高齢者が安心して暮らせるまち)	
○自治会での目的や年齢にこだわらない定期的な集まりを開催する	<ul style="list-style-type: none"> 子ども会、防災会、子ども見守り隊、防犯パトロール、地域の茶の間 男性が集まりに出てこないで、目玉を考える (リハビリ、マッサージ、軽い運動、女性が誘う等) 趣味のサークルなどで交流の輪を広げる(介護予防になる)
○高齢者に限定したお茶の間だけでなく、若い世代を含めて集まれる場を実施する	<ul style="list-style-type: none"> 地域の茶の間、ふれあい昼食会、敬老会 世代間+障がい者も交えた交流事業 (地域の中で障がいに対する理解を得、顔の見える関係づくりを構築す) 施設と地域の交流事業 小学校の父母たちはにバリアフリーの認識が深まっているが、地域全体ではまだ深まっていない 男性の茶の間をつくる
○単発でなくその後の繋がりを感ぜられる活動をする	<ul style="list-style-type: none"> 地域の茶の間、ふれあい昼食会、歳末訪問活動等声掛け 老人クラブのボランティア活動 ウォーキング等、自然に参加できる健康づくり 近所の見守りや声掛けが必要 認知症になった時に近所に伝え、協力を得ることができるようになる 曜日を決めて、乗り合わせによる買物支援(有償ボランティアの育成が公民館事業で人材育成ができないか) 老人クラブの会員を増やす
○祭りのようなイベントを検討する	<ul style="list-style-type: none"> 春秋の祭礼、運動会、卓球大会、カーリング大会、文化祭、敬老会、ひなコンサート ひなまつりコンサートは定着、祭礼は、日曜日の開催へ(神社に相談)コンサート 継続した活動へ
2. 地区の皆が地域活動情報を知る (私たちが支えあい、助けあうまち)	
○チラシを配布するだけでなく声をかけ、直接一生懸命誘う！！	<ul style="list-style-type: none"> 年3回の声掛け訪問 話しやすい雰囲気をつくる(配布物の際にひと声かける) 防犯パトロールは、年1回(どこまで徹底されているかは不明)
○地区の各団体の役員になることで地区活動を知ることができるため、役員を増やすことを検討する	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ協議会の部会、専門班の組織化 検討会の継続
○地区住民も積極的に情報を得る努力をする	<ul style="list-style-type: none"> 自治会長協議会・コミュニティ協議会との連携活動 コミ協だよりの発行回数を増やし、写真など見やすくした 地域の関係団体と災害時の検討を重ねた 回覧や案内チラシを渡す際に、ひと声かける
3. 子育てを地域住民で支援しよう (私たちが支えあい、助けあうまち)	
○地域ぐるみで子育てを支援しよう	<ul style="list-style-type: none"> 小林ひまわりクラブに地域住民が支援する(学童クラブスタッフは熱意が) 登下校時の見守り 子供の通学時に合わせて犬の散歩をする 退職された方々に協力頂き、子供たちの見守り活動に参加してもらう 畑仕事をしている人から声をかけてもらう 小林ひまわりクラブの運営に地域の大人が協力し、生活の基本や社会規範を教える

27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	特記事項
B	B	B	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 老人会は活発に活動していた。(輪投げ、卓球)80、90代も参加し、元気である。 民生委員訪問活動(普段から気にかけて訪問している) なじらね訪問(春、夏、秋、冬)自治会長、民生委員の協力により安否確認訪問活動 地域の茶の間は会食をやめるなどして、工夫しながら再開した。また、参加者からは、○○しようなどと積極的な声が出てくるようになった。
B	B	B	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域生活センター調理室や会議室のエアコンやヒーターを整備したため、活用しやすくなった。 昼食会はコロナ禍により中止となったが、見守り訪問「なじらね秋」の中で体調を気遣う手紙を添えるなど工夫して取り組んだ。 トイレの改修は、構造上難しいが、しかし、バリアフリーの観点から、引き続き声をあげていく。
A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 歳末訪問活動は継続して実施している。大変喜ばれている。 南区内のバス、デマンドは、連結や予約等による原因なのか、高齢者が活用するに至っていない。小林地区のお助け隊こぼやしの中で移動の助け合いが必要である。引き続き検討していく。 R2.8～お助け隊こぼやしを開始をした。11月までに12件対応した。
A	A	A	A	A	—	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍において、行実施できなかった。すべてやめると集まるのが難しくなることから、老人クラブで意識的に輪投げ等を実施した。
27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	特記事項
B	B	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 今まで通り継続して実施している。(声かけ訪問、配布物を活用した声かけ等) 声かけや回覧板等を活用して、周知には配慮して行っている。
B	B	A	A	A	—	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で、高齢者も外出を控えている中で、若い人をひき込む取り組みは難しい。 本来であれば、自治会の中で課題等について話し合い、それをコミ協でさらに検討できれば、さらなる福祉推進ができる。次年度以降も引き続き声かけをしていきたい。
B	B	B	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 命を守る行動の一つとして、防災士の育成が大切であるが、今年度力を入れて取り組んだ。地区から4名受講した。
27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	特記事項
A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 見守り活動を一生懸命した。 ひまわりクラブについて、地域が関わることでいい形で運営をした。 地域防災マップの確認会議を行った。

「やろってば！」笑顔で仲良く臼井地区

確認事項	評価
地域の関係者で共有しよう（地域の関係者で、地域の課題、取り組んだ内容等共有されていますか）	△
引継ぎをきちんとしよう（役員の交代等、計画について引継ぎがされていますか）	○
住民にきちんと伝える機会をつくろう（地域の住民に計画の進捗状況、次年度の取り組みなどが伝えられていますか）	△

*それぞれの項目ごとでチェック	評価
確実に行われた場合	○
一部、行われなかった場合	△
ほとんど行われなかった場合	×

推進目標に対する評価	評価
期待される取組みの90%以上達成	A
期待される取組みの75%以上達成	B
期待される取組みの50%以上達成	C
期待される取組みに50%未満	D

推進目標 (区の基本目標との関連)	実施している取組
	期待される取組

1. 交流・仲間づくりができる集まる場がある地区 (安心して子育てできるまち・障がいのある人もない人も安心して暮せるまち・高齢者が安心して暮せるまち)	
○地区の既存組織を大切に育てるとともに連携する	<ul style="list-style-type: none"> ・2カ月に1回のコミ協総務委員会など、複数回での会議、集まり ・定期的なお茶の間の活動（4か所） ・自主防災会による避難訓練の実施 ・中学校の同窓会を組織化したい（臼井地区は卒業した中学校が一本化していない） ・中心となるリーダーの育成 ・地区の運動会を行うことでリーダーを作っていく
○既存の事業を活発にする (狸の婿入り、敬老会)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の茶の間 ・狸の婿入り（写真コンテスト） ・伝統芸能の棒おどりを中学校の体育祭で披露 ・交流の拠点として商店街の空き店舗の活用→地域全体の交流イベント ・各団体が協力し合うことでより良いものができる ・既存事業を活発にしながら多世代交流できる新しい事業もつくりたい
○送迎を含めてだれでも参加できる方法を検討する	<ul style="list-style-type: none"> ・敬老会するとき、送迎している自治会がある ・移動手段についての検討 ・敬老会に大勢参加してもらうための取組み
○事業者も地区の一員、積極的に交流を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流まつり（感謝祭）の開催 ・地域の交流拠点やボランティア活動の推進

27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	取組み内容
B	B	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であったが、年6回のコミ協総務委員会を3回開催できた。 ・今年度は小蔵子のお茶の間も新規立ち上げし、3回開催できた。既存のお茶の間はコロナ禍であったが6月から定期的に開催できている。 ・臼井地区自主防災会メンバーを対象に「自主防災会の役割と準備」をテーマに、勉強会を実施した。
A	A	A	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・10月に代替事業として「コロナをふっとばせ！」の祭りを実施した。 ・地域の茶の間は感染対策の工夫をして開催した。 ・中学校の体育祭で棒おどりを披露し、講習もできた。小学校では棒おどりを披露できなかったが、イベントはしている。
A	A	A	A	A	-	
A	A	A	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・10月から健康づくり教室（ヨガ教室）を週2回実施。1回につき平均12名参加している。

2. ボランティアや地区活動を理解し関心をもてる地区 (私たちが支えあい、助けあうまち)	
○あいさつ運動を実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動→標語・ポスター募集、優良作品の選定、表彰、のぼり旗など ・あいさつ運動を見守りにつなげていく ・あいさつ運動を地区全体へ広める
○ボランティアや地区活動に積極的に参加する	<ul style="list-style-type: none"> ・食育・生活指導を行っている ・食生活改善推進委員による食育・生活指導 ・福祉施設でのボランティア活動 ・花植え、読み聞かせなどボランティア活動 ・子どもの登下校の見守り
○行事や活動の情報提供とPRを努力する	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事等を含むカレンダーを作成 →活動のわかる写真を掲載して情報を発信 ※回覧板やチラシなどの配布物は声を掛けて情報提供

27年度	28年度	29年度	29年度	R1年度	R2年度	取組み内容
A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校であいさつ運動を実施。 ・高齢者施設職員や民生委員と一緒にカーネーションで花文字を作り、中学生に渡した。 小学生は、クリスマスリースを渡し文化祭で飾ってもらった。
B	B	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園や小学生と花植え、読み聞かせ活動実施。 ・食推と一緒に子ども料理教室を行い味覚祭を実施した。40人以上集まり、ソーシャルディスタンスに気をつけた。 ・小学3年生とゴミ拾い、中学校全校生徒と職員と一緒に公園の清掃活動。
B	B	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事カレンダーを作成し、全戸配布した。 ・回覧板やチラシ、コミ協だよりを発行。

なじらね～？と声をかけあう大郷地区

確認事項	評価
地域の関係者で共有しよう (地域の関係者で、地域の課題、取り組んだ内容等共有されていますか)	○
引継ぎをきちんとしよう (役員交代等、計画について引継ぎがされていますか)	○
住民にきちんと伝える機会をつくろう (地域の住民に計画の進捗状況、次年度の取り組みなどが伝えられていますか)	△

*それぞれの項目ごとにチェック	評価
確実に行われた場合	○
一部、行われなかった場合	△
ほとんど行われなかった場合	×

推進目標に対する評価	評価
期待される取組の90%以上達成	A
期待される取組の75%以上達成	B
期待される取組の50%以上達成	C
期待される取組の50%未満	D

推進目標 (区の基本目標との関連)	実施している取組み 期待される取組み
1. 支えあいの関係づくり (安心して子育てできるまち・障がいのある人もない人も安心して暮せるまち・高齢者が安心して暮せるまち)	
○隣近所と普段からのコミュニケーションを持つ(あいさつ声掛けをする)	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校のあいさつ運動の強化週間の取り組み ・挨拶は基本。大人から積極的に声を掛け、子供の目線で挨拶をする
○昔ながらの声を掛け合う関係を若い世代に継承していく	<ul style="list-style-type: none"> ・大鷲夜まつりで多世代が交流できる →親と子がつながることで、地域もつながる ・しめ縄づくりで世代間交流 ・地域交流イベントなどを実施しながら声を掛け合う関係を伝えていく ・小学校とのタイアップ(多世代交流イベントの実施)
○せつかくまだ残っている隣組の良い部分をうまく残していく	<ul style="list-style-type: none"> ・最近では冠婚葬祭のみの関係 ・クリーン作戦(年1回)は全戸参加→安否確認、多世代交流 ・隣組を活用して緩やかな見守りを実施したい ・回覧板や配布物は必ず声を掛ける
○みんなが大郷地区のことや活動に関心を持ち、地区の活動を理解し、積極的に参加する	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の茶の間 ・お弁当のお届け(給食サービス事業) ・安心箱支給事業 ・友愛訪問活動(安否確認) ・回覧板や配布物は必ず声をかける ・回覧板の工夫 ①デザイン ②キャッチフレーズ ③季節ごとの標(子どもたちから募集) ・お弁当やおせちの配食、友愛訪問の際に子どもたちからのメッセージを入れたり、一緒に配る
2. 集まる場づくり～年代、目的に関わらない誰でもいつでも寄れる場所を目指して～ (安心して子育てできるまち・障がいのある人もない人も安心して暮せるまち・高齢者が安心して暮せるまち)	
○情報の宝庫である“地域生活センター”を拠点に情報や行事を発信し、各集会所へ広げていく	<ul style="list-style-type: none"> ・サークル活動や学童クラブ、健康体操(いきいき会)等でセンターを活用 ・健康寿命を延ばす ・地域の方々が集まる場づくり
3. 安心して暮らせる地域づくり (安心して子育てできるまち・障がいのある人もない人も安心して暮せるまち・高齢者が安心して暮せるまち)	
○災害時のしくみづくりを進める	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災会を中心とした年1回の防災訓練を実施 ・災害時のマニュアルづくりや地域福祉マップづくり ・防犯対策の検討

27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	取組み内容
A	A	A	A	A	A	・通年、登下校時の児童、生徒と積極的に挨拶を交わしている。 ・学童や地域で出会った子供たちには、声をかけている。
A	A	A	A	A	—	・コロナ禍で行事が実施できなかったが、次年度できるようなら、大切な交流の場としたい。
B	B	B	A	A	A	・隣組を活用して緩やかな見守り活動をしている。 ・回覧板や配布物は必ず声をかけている。
B	B	A	A	A	A	・地域の茶の間活動が再開された。 ・配食サービス、安心箱支給、見守り訪問(安否確認)等の福祉事業を実施できた。 ・芋ほりや花いっぱい運動を学童や小学校と一緒に、地域生活センター、小学校、大郷梨の里公園の3か所で実施をした。
27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	取組み内容
B	B	B	A	A	A	・地域生活センターを活用して、学童クラブ、健康体操、生け花等を活発に実施している。
27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	取組み内容
C	C	C	B	A	A	・小学校見守り110番事業等防犯用のマップを毎年見直しをしている。 ・避難行動要支援者の体制づくりを考えていく必要がある。 ・避難所におけるコロナ対策を考えていく必要がある。

全員集合！鷺巻地区 ～笑顔の和を広げよう～

確認事項	評価
地域の関係者で共有しよう (地域の関係者で、地域の課題、取り組んだ内容等共有されていますか)	○
引継ぎをきちんとしよう (役員の交代等、計画について引継ぎがされていますか)	△
住民にきちんと伝える機会をつくろう (地域の住民に計画の進捗状況、次年度の取り組みなどが伝えられています)	×

*それぞれの項目ごとでチェック	評価
確実に行われた場合	○
一部、行われなかった場合	△
ほとんど行われなかった場合	×

推進目標に対する評価	評価
期待される取組の90%以上達成	A
期待される取組の75%以上達成	B
期待される取組の50%以上達成	C
期待される取組の50%未満	D

推進目標 (区の基本目標との関連)	実施している取組み 期待される取組み
----------------------	-----------------------

1. 集落に集いの場をつくる (安心して子育てできるまち・障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち・高齢者が安心して暮らせるまち)	
○各集会所を拠点とする 体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・お茶の間の新規開設 (中鷺ノ木地区) ・各集落にお茶の間をつくるにはリーダーが必要 ・中鷺ノ木の茶の間をモデル (リーダーや世話人のいない運営)
○多世代交流の (機会) 場をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・大鷺夜まつり→新しい世代交流活動 →小・中学校との連携で祭りの内容が多彩 ・(桜町) 集会所を利用したサークル活動 (卓球・カラオケなど) ・桜灯籠まつり (4月中旬/実行委員会方式) ・植栽活動 (鷺巻地区保全会の立ち上げ) ・交流の場をつくる→子供が集まる行事は他の世代も集まる ・地域の環境整備活動で地域の繋がりが顔が見える (花植え、クリーン作戦)
○既存の事業の拡充 (お茶の間)	<ul style="list-style-type: none"> ・下鷺ノ木、桜町、鷺巻いきいきサロンの開設 →参加者が減少 ・今あるお茶の間を継続していくことが大切 ・集会所を大いに活用し、集まることから始める ・健康寿命を延ばす活動→病院の班会を利用する
○ボランティアリーダー の育成を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーを育てる仕組みが必要 →コミ協、行政、社協に期待
○老人クラブの活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・植栽活動を通して多世代交流をする ・老人クラブと保全会との協働

27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	取組み内容
A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあるが、地域の茶の間を工夫しながら再開できた。(中鷺ノ木、下鷺ノ木) ・老人クラブも工夫しながら、集まる機会を作っていた。
A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・集会所を利用した卓球等のサークル活動には、老若男女問わず参加してくれた。 ・植栽活動 (さつまいも、グリーンカーテン、花植え、チューリップ球根植え等) は、園児と一緒に取り組み、顔のつながりを作るきっかけとして交流できた。
D	D	C	C	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・はたちの会は運営に協力をしてくれる方ができた。また自治会とも連携できていて、運営の安定化が図れた。 ・地区内の友人同士で誘い合って、白根の白寿荘へ行き、交流を図っている。 ・地域生活センターを活用して交流が図れるように、DVDが観賞できるプロジェクターを購入した。コロナ禍で今年度はできなかったが、次年度につなげたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ・自治会における茶の間の開設時には、きっかけづくりが必要である。DVDを活用した取り組みなど提案したい。 </div>
D	C	C	C	D	D	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に取り組めていない。今後の課題である。
D	D	D	C	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、地区内の老人クラブは2団体。中鷺ノ木地区は、旅行、茶の間、フロアーカーリング等の様々な活動に取り組んでいる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ・各種行事を通じて、今後も多世代交流を実施していきたい。 </div>

明るく いきいき すこやか 根岸もん

確認事項	評価
地域の関係者で共有しよう (地域の関係者で、地域の課題、取り組んだ内容等共有されていますか)	○
引継ぎをきちんとしよう (役員の交代等、計画について引継ぎがされていますか)	○
住民にきちんと伝える機会をつくろう (地域の住民に計画の進捗状況、次年度の取り組みなどが伝えられていますか)	○

*それぞれの項目ごとでチェック	評価
確実に行われた場合	○
一部、行われなかった場合	△
ほとんど行われなかった場合	×

推進目標に対する評価	評価
期待される取組の90%以上達成	A
期待される取組の75%以上達成	B
期待される取組の50%以上達成	C
期待される取組の50%未満	D

推進目標 (区の基本目標との関連)	実施している取組み
	期待される取組み

1. お茶の間を全地域につくろう (安心して子育てできるまち・障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち・高齢者が安心して暮らせるまち)

○新規のお茶の間を立ち上げる	・9か所のお茶の間、サロン活動
	・地区集会場を活用したサロンの立ち上げ
○既存のお茶の間事業の拡充	・お茶の間交流会
	・子供、大人の垣根をなくした集まり ・ひまわりクラブと地域の高齢者の交流 ・案内チラシや回覧板の工夫 ・ネーミングの変更 ・子供たちのに昔遊びを教える
○隣近所との協力体制づくり	・あやめ祭りをはじめとした各種祭り ・伝統芸能 ・米づくり
	・回覧板の見直し ・ちょっとしたおせっかいが大切 ・登下校時の見守り活動で声掛け ・ラジオ体操に多世代が参加
○趣味のサークル等をつくる	・カーリング大会 ・ゲートボール大会 ・輪投げ大会など
	・案内チラシや回覧板の工夫
○リーダーの育成を図る	
	・各種活動を通じ、リーダーの自然発生 ・役員の引継、途切れない仕組みの構築 ・役員改選時の勉強会実施や事業手順書の作成
○地域で要援護者が取り残されないような体制づくりをする	・自主防災組織の立ち上げ ・根岸地区図上訓練の実施 ・防災訓練
	・ちょっとしたおせっかいが大切

27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	取組み内容
C	C	C	C	B	C	・3か所で地域の茶の間活動を実施している。 (新型コロナウイルスの関係で活動を自粛している茶の間がある。) <課題>コロナの関係で新規立ち上げができなかった。
B	B	B	A	B	B	・コロナ禍であっても、再開している地域の茶の間には、人が集まっている。 ・包括支援センターとの情報交換会を定期的に開催した。 <課題>コロナの関係で各種交流ができなかった。
B	B	B	B	B	A	・米作り体験の実施(小学生) ・文化祭で農業の歴史を学ぶ機会への協力(小学生)(昔の米作りの道具の貸し出し等) ・野菜(ネギ、さつまいも)づくり体験の実施(小学生) ・団地の中での畑の会や野菜作りの取り組み(住民) ・セーフティスタッフの取り組み(全自治会で実施) コロナ禍ではあるが、工夫しながら、各種体験等が実施できた。セーフティスタッフの取り組みは多くの地域住民から協力を得て見守りをしている。
A	A	A	A	A	A	・ゲートボール大会の実施 ・カーリング大会の実施(子供たちの参加もあり、世代間交流ができた。)
C	C	C	C	C	B	・ゲートボールやカーリング大会を通じて、新しいメンバーが入ってきている。併せて、役員のなり手にもつながっている。
A	A	A	A	A	A	・自主防災訓練の実施 ・避難行動要支援者の安否確認の訓練を実施した。

老いも若きもスクラム組んで、住んで楽しい大通

確認事項	評価
地域の関係者で共有しよう (地域の関係者で、地域の課題、取り組んだ内容等共有されていますか)	△
引継ぎをきちんとしよう (役員の交代等、計画について引継ぎがされていますか)	○
住民にきちんと伝える機会をつくろう (地域の住民に計画の進捗状況、次年度の取り組みなどが伝えられています)	△

*それぞれの項目ごとにチェック	評価
確実に行われた場合	○
一部、行われなかった場合	△
ほとんど行われなかった場合	×

推進目標に対する評価	評価
期待される取組の90%以上達成	A
期待される取組の75%以上達成	B
期待される取組の50%以上達成	C
期待される取組の50%未満	D

推進目標 (区の基本目標との関連)	実施している取組み 期待される取組み
1. みんなで参加・交流・理解 (安心して子育てできるまち・障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち・高齢者が安心して暮らせるまち)	
○学校と地域との協力体制をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 学校の授業や行事に地域ボランティアが積極的に協力している。(老人会の出前授業他) 「大通小学校見守りたい」を結成(登下校の見守りマップを作成) 地域住民への活動の周知 周知活動の強化 子どもたちへ活動の意図を理解させる工夫が必要 見守りたいとセーフティスタッフを核とした見守り活動の充実
○各種団体等の協働を図る	<ul style="list-style-type: none"> 自治会、老人会、子ども会、PTA、セーフティスタッフ、民生児童委員、保健会、食生活改善推進委員、地域ボランティア、コミ協などの相互連携(防災訓練・大通地域合同リレー作戦など)(老人会の出前授業他) 社会福祉協議会との協働 多世代交流、子どもたちの見守り活動、PTA活動、老人会など、もっと情報発信、活を見える化し理解者を増やし連携を強化する。
○既存事業を拡充し多世代交流の機会をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 中学生と老人会共同ゴミ拾い 地域の茶の間、子育て講演会、大通夏祭り、大通レクリエーションフェスティバル(スポレク)、大通地区文化祭、ふれあい昼食会、敬老会等の開催 事業のPR、広報の仕方に工夫が必要 自治会単位でお茶の間をつくる(自治会の後押し必要) 元気な高齢者が集まれるサークルづくり 集会所の利用を増やす(地域に大いに使ってもらう) 地域住民の交流と健康づくり

27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	取組み内容
B	B	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> セーフティスタッフ活動は継続して取り組んだ。今年度はスタッフが増えた。 自主防災会と防災士の会が担当して、大通小で防災研修を実施した。 小学校後援会で見守りマップを配布した。北中の登下校の時間を掲載することで、その時間帯に見守りしてもらうようにした。 中学校に後援会を作ることで検討している。 小学4年生と民生委員と一緒に花壇の花植えをし、水やりを毎日している。
A	A	B	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナの関係でコミ協全体では、様々な事業実施ができなかったが、小さな単位(自治会等)でクリーン作戦、70歳以上の高齢者を対象とした訪問活動、防災訓練等を実施した。防災訓練については、コミ協は各自治会の集約を行った。今回の様々な取り組みは、団体同士というよりは、個人、サークル、有志等小さな関わりの中で連携、協力関係が築けた。また、高齢者の見守り訪問活動は、今後の事業(安心箱配布)につながるよう、約150世帯の70歳以上の高齢者全員を対象とすることができた。
B	B	C	C	B	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で、「集まらない、動けない、物忘れがでてきた」などの声を聞くようになり、何とか工夫して集まる機会ができないかということで、地域の茶の間を再開した。最初は密にならないようにと間隔を広く開けていたが、参加者がポソソとして交流ができないことから、机の配置や最低限の間隔等さらに工夫を重ねて開催をした。すると顔の表情が変わり、少しずつ参加者も楽しむ様子が伺えるようになった。 地域の茶の間(ご近所ネット)の他に、大通地区文化祭(秋祭り)を実施した。大通2丁目では地域の茶の間ができた。 コロナ禍で今までと同じような事業は出来なかったが、縮小しながらも工夫しながら取り組んできた。

2. みんなで作ろう安心安全 (安心して子育てできるまち・障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち・高齢者が安心して暮らせるまち)	
○地域内でみんなの声かけ	<ul style="list-style-type: none"> コミ協だより、防犯だよりの発行 青色パトロール車による防犯活動の実施 夜間パトロールの実施 高齢者世帯の見守り支援 高齢者の見守り、支援体制づくりの充実 団体活動PR版など町内で保存版とする ウォーキングや犬の散歩を利用した見守り活動
○隣近所との協力体制をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練や日頃の連絡網を使用して協力体制の構築 老人会の友愛訪問活動 活動の資料を整理し、次の役員へ引き継いでいく体制づくり
○災害時に対する避難体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> 大通全地区の防災訓練実施 自治会独自の緊急連絡網の整備 自治会単位での避難訓練 平日の昼間を想定した避難訓練 災害時要配慮者への救援体制づくり

27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	取組み内容
B	B	C	C	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 見守り活動に取り組んでいる人は定着しているが、広がりがない。 青色パトロール車による防犯活動の実施。 高齢者見守り支援体制の構築(徘徊をした人に対して、フローによる対応:ケアマネ⇒大通コミ⇒自治会長で連絡して探している)今後は、班長等まで連携し、網の目のように動けるように検討していく。
B	B	C	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 災害時連絡網の活用は定着している。(毎年自治会ごとに見直しを行い、確認をしている。) 老人会の友愛訪問活動は継続して実施している。 防災訓練等自治会での動きはあったが、小さな単位だと結果が見えにくい。課題はあると思うので、コミ協で集約することが大切である。
D	D	C	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 自治会長が1,2年で交代するため、災害時対応を考え、長く活動ができる防災士の育成をしてきた。自治会も防災士の必要性が分かってきた。今年度は、防災士が2名増えた。若い世代が考えるようになった。 避難行動要支援者への救援体制づくりの意識向上に努めた。支援者は複数(2人以上)で対応。今年度から体制ができた。 要支援者へ地域が対応することが理解されるようになってきた。今後は実技で訓練できるようにしたい。

みんなにやさしい シロネもん

確認事項	評価
地域の関係者で共有しよう (地域の関係者で、地域の課題、取り組んだ内容等共有されていますか)	○
引継ぎをきちんとしよう (役員の交代等、計画について引継ぎがされていますか)	○
住民にきちんと伝える機会をつくろう (地域の住民に計画の進捗状況、次年度の取り組みなどが伝えられていますか)	○

*それぞれの項目ごとにチェック	評価
確실히行われた場合	○
一部、行われなかった場合	△
ほとんど行われなかった場合	×

推進目標に対する評価	評価
期待される取組みの90%以上達成	A
期待される取組みの75%以上達成	B
期待される取組みの50%以上達成	C
期待される取組みに50%未満	D

推進目標 (区の基本目標との関連)	実施している取組み 期待される取組み
1. 集まる場をつくろう (安心して子育てできるまち、障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち、高齢者が安心して暮らせるまち)	
○お茶の間活動を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> お茶の間(ことぶき、能登栄町、東幸会、憩いの場、十五間、日の出町、からだ楽らく会、みんなの茶の間、元気会、かけ橋、清楽苑、天昌堂、ゆかり) 空き家活用できないか 周知活動の強化
○気軽に誰もが集まれる場づくりを検討する	<ul style="list-style-type: none"> 商店街で定例会、公園の草取り(年3~4回)お祭り前に神社の草取り 地域の人が集まるきっかけづくり 町内会など小さな単位の集いの場づくり
○心配な人に対する訪問活動を検討する	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員の訪問活動、日の出町のネットワーク活動、自治会班長の声かけ(配布物届の際)、住民同士で気にかけている 子ども会から行事など声かけ 保健会と老人会がタイアップした活動
○地区のみんなが顔見知りになるための活動を検討する	<ul style="list-style-type: none"> 花見、まつり、新年会、お茶の間等で交流 町内会総会を兼ねた懇談会 町内会での茶の間の立ち上げ 町内で上記にあるようなイベント検討
2. みんなが地域の情報を知る (安心して子育てできるまち、障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち、高齢者が安心して暮らせるまち)	
○地区活動のPR方法を各実施主体が工夫する	<ul style="list-style-type: none"> コミ協だよりの発行、ホームページ、ポスター、チラシ、回覧板 町内会の集まりで情報提供、学校だよりの回覧 配付物を目にとめてもらう工夫
○お茶の間など集まる場を活用し、地区の活動などを共有する	<ul style="list-style-type: none"> 茶の間や自然に集まる場があり地域情報を得ている 情報を得る場としてお茶の間を広める 茶の間等に参加できない人への対応
○災害など非常時のスムーズな情報伝達体制をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の援護体制確立 町内会で家族構成を把握し、いざという時の協力体制 防災訓練の実施と要援護者の確認 上記のような活動を広める
3. 町内会の活動を見直そう(私たちが支えあい、助けあうまち)	
○まつりに積極的に参加してもらうための働きかけをする	<ul style="list-style-type: none"> まつりでよさこいできた まつりを継ぐ人の育成
	<ul style="list-style-type: none"> 魅力あるまつりを工夫(よさこいチームの結成)
4. 若い世代に「福祉」に参加してもらおう(私たちが支えあい、助けあうまち)	
○若い世代の自治会等の役員をターゲットに小さなことでも関心もってもらおう工夫を検討する	<ul style="list-style-type: none"> 南っ子ふゆまつり、ふれあい親子まつり 親子会 子ども会と町内会がタイアップした事業 世代間交流事業(敬老会の工夫など)

27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	取組み内容
B	B	A	B	A	A	地域の茶の間は、コロナ禍でも工夫しながら再開できた。
B	B	B	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 南部地区は、昨年に引き続き、月1回役員会を開催し、集まる機会を作った。 排水塔において、花植えを実施した。(春・秋) <p>課題: 来年度は、コロナ禍でも、集まる機会を工夫しながら作っていきたい。</p>
B	B	B	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員訪問活動や日の出町見守りネットワーク活動は一生懸命に取り組んでいる。 <p>課題: 自治会と民生委員が訪問活動において情報交換する場があると良い。</p>
B	B	B	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度、地域の茶の間が1か所開設される予定 <p>課題: 一人暮らし高齢者が増加しているため、総会等への参加が減っている。外に出ない人にどう参加してもらうか、工夫が必要である。</p>
27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	取組み内容
B	B	B	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> コミ協だよりの発行、ホームページ、ポスター、チラシの配布、回覧板等は昨年に引き続き取り組みをした。実施した活動については、商店街に掲示するなど周知に努めた。 各団体(住み郷、保健会等)は広報発行をし、全世帯に配布を行った。 <p>課題: PR方法には、もう少し工夫が必要である。</p>
B	B	B	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度、地域の茶の間が1か所開設されることから、情報交換の場が増える。 地域の茶の間に男性の参加は少ないが、地域生活センター等で将棋等している。(男性の好きなテーマであれば参加しやすい)
B	B	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 南部防災訓練の実施。スタッフ含め84人の参加合った。 防災研修では、高校生から検温のボランティアをもらった。 養口等の町内会でも防災に関する学習会を行った。 <p>課題: 避難行動要支援者名簿の取り組みに工夫が必要である。</p>
27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	取組み内容
B	B	B	A	A	—	
27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	取組み内容
B	B	B	A	A	—	

なじらね ほかい〜ね いきいき ふれあい ささえあい 味方地区

確認事項	評価
地域の関係者で共有しよう(地域の関係者で、地域の課題、取り組んだ内容等共有されていますか)	○
引継ぎをきちんとしよう(役員の交代等、計画について引継ぎがされていますか)	○
住民にきちんと伝える機会をつくろう(地域の住民に計画の進捗状況、次年度の取り組みなどが伝えられていますか)	○

*それぞれの項目ごとにチェック	評価
確実に行われた場合	○
一部、行われなかった場合	△
ほとんど行われなかった場合	×

推進目標に対する評価	評価
期待される取組の90%以上達成	A
期待される取組の75%以上達成	B
期待される取組の50%以上達成	C
期待される取組の50%未満	D

推進目標 (区の基本目標との関連)	実施している取組 期待される取組
1. 閉じこもっている高齢者に外に出てもらおう (住みなれた南区で自分らしく暮らせる地域づくり)	
○地域ごとの茶の間を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー懇談会開催 ・趣味活動 ・お茶の間8カ所、子育てサロン1カ所開催
	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい取組など工夫が必要 ・次世代につなげる
○老人会の活動に積極的に参加する	<ul style="list-style-type: none"> ・輪投げ大会(小学生も参加) ・ゲートボール、草取り ・楽友荘でお楽しみ会(会員以外も参加)
	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある老人会で、新規会員の加入を図る ・多世代交流の場づくり
2. 交流の場を広げ、みんなで参加しよう (住みなれた南区で自分らしく暮らせる地域づくり)	
○障がい児者との交流の場をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリ友の会 ・身体障がい者の集まり、運動会 ・小中学校の総合的な学習時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者、健常者、高齢者混じった交流 ・顔見知りになるゲーム、食事会など
○男性ボランティアの育成を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・各種活動への参加を促す ・具体的な役割を依頼(防災等) ・核になる人の育成 ・電球の交換等、ちょこっとボランティア
○地区敬老会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・3地区ともに盛大、高齢者同士の交流の場 ・新規会員の加入を図る ・敬老会を世代間交流の場として工夫

27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	取組み内容
B	B	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の茶の間の自粛明けは、参加者のお話が尽きず、集まることの意義を再確認した。 ・地域の茶の間は、コロナ感染予防対策をしつつ工夫をして運営を行っている。 ・リーダー懇談会は開催している。 ・おむすびクラブでは、学校と地域のボランティアが連携して、様々な事業を行っている。主に学習支援や絵本の読み聞かせで、たくさんの方の地域の方がボランティアとして参加している。
A	A	A	A	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・輪投げなど計画していた事業は、コロナ対策をしつつ実施した。 ・笹川邸のすす払いや花祭りなどの行事には、たくさんの方が集まった。 ・楽友荘でお楽しみ会はコロナの影響により中止とした。
B	A	A	A	B	—	<ul style="list-style-type: none"> ・身体障がい者の集まり、運動会についてはコロナの影響で中止となった。 ・学校の訪問も、コロナの影響でできなくなっている。
B	B	B	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練は中学生と一緒に実施できた。 ・配食ボランティアの活動は継続してできている。 ・思いやりの会でのゴミ出し支援など、継続して実施している。 ・個々で空き家の草取りなど気が付いたときにしている。 ・いきいき子ども塾は地域でアルミ缶収集し、それを予算として実施している事業で、小中学生を対象にキャンプやスキーなどに行っていたが、コロナの影響で今年度は中止となった。 ・花いっぱい虹の会では小学校の庭やプランターに花を植え、小学校周辺を花でいっぱいにしていく。力仕事もあることから地域の男性陣や老人クラブへ声掛けし、子どもたちと交流をしながら作業を行った。
A	A	A	A	A	—	<ul style="list-style-type: none"> ・敬老会はコロナの影響で中止となった。 ・来年を楽しみにしている方が多い。

あいさつ 声かけ 思いやり つながりふっつ 獅子の里

確認事項	評価
地域の関係者で共有しよう (地域の関係者で、地域の課題、取り組んだ内容等共有されていますか)	○
引継ぎをきちんとしよう (役員交代等、計画について引継ぎがされていますか)	○
住民にきちんと伝える機会をつくろう (地域の住民に計画の進捗状況、次年度の取り組みなどが伝えられていますか)	○

*それぞれの項目ごとでチェック	評価
確実に行われた場合	○
一部、行われなかった場合	△
ほとんど行われなかった場合	×

推進目標に対する評価	評価
期待される取組の90%以上達成	A
期待される取組の75%以上達成	B
期待される取組の50%以上達成	C
期待される取組の50%未満	D

推進目標 (区の基本目標との関連)	実施している取組 期待される取組
1. 子どもを含めての世代間交流の活動をしよう(住み慣れた南区で自分らしく暮らせる地域づくり)	
○セーフティスタッフの活動を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> ・月潟・大別当で5~6人が活動 ・ながら見守りで良いので、地域全体の活動へ ・スクールバス降車後、自宅までの見守り ・スタッフ確保のためにも活動のPR
○地域の茶の間に子どもたちを招いて一緒に活動する	<ul style="list-style-type: none"> ・大別当、曲通、月潟の茶の間では、世代間交流の日を設けている ・保育園や学校に高齢者が行く ・茶の間の活動を積極的にPR ・健康センターを有効活用して、新しいイベントを実施
○ふれあいスクールを継続する	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいスクールの継続実施 ・保護者も運営スタッフとして参加 ・ボランティアの募集 ・老人クラブの協力
2. 地域の茶の間を各集落につくろう(住み慣れた南区で自分らしく暮らせる地域づくり)	
○今あるお茶の間以外にも、各集落に地域の茶の間をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の茶の間の実施 ・茶の間の活動を積極的にPR
○今あるお茶の間については、継続し充実していく	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の茶の間は継続実施 ・子育てサロン継続実施 ・魅力ある茶の間づくり
3. 地区の運動会を盛り上げよう(住み慣れた南区で自分らしく暮らせる地域づくり)	
○月潟地区全体が参加し、運動会を盛り上げ、住民同士がふれあい、交流を深める	<ul style="list-style-type: none"> ・全集落参加の運動会の継続実施 ・地区役員の負担の軽減 ・魅力ある内容
4. ボランティア・地区のリーダーを育成しよう(住み慣れた南区で自分らしく暮らせる地域づくり)	
○今ある組織・グループの活動を若い世代に継承する	<ul style="list-style-type: none"> ・南天の会、セーフティスタッフのメンバー募集 ・中学生の奉仕活動 ・仕事をしている人も参加できる工夫 ・世代間交流や茶の間活動のなかで、ボランティアリーダーを育成
○活動を楽しく・満足感や達成感が持てるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体の研修会や懇親会の実施 ・活動のPR
○個人個人の意識がアップするような啓発事業を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> ・健康と福祉のつどいを開催 ・認知症の理解を深める活動を実施 ・啓発事業の充実

27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	取組み内容
C	C	C	C	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・セーフティスタッフだけでなく、通学路の道沿いに住む方や、市の日では出店者も児童へ声掛けをし、地域全体での見守りが出来ている。 ・防災無線を利用しての小学校の下校時間の放送がなくなり、下校時の見守りができなくなった。(学校が廃止した) ・セーフティスタッフの募集については、地域に配布される広報紙などを活用し、周知する。
B	B	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各茶の間において、子どもたちを招いて交流する計画をしていたが、コロナの影響により実施することはできなかった。 ・広報紙を利用して、茶の間の活動を周知する。
B	B	B	B	D	—	R元年度に、ふれあいスクールが廃止となった
27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	取組み内容
B	B	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても対策をしながら茶の間を実施している。 ・広報紙を利用して、茶の間の活動をPRする。
B	B	B	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・健康相談や映画会、地域にある薬局からお薬教室をしてもらうなど充実した内容で実施している。
27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	取組み内容
A	A	A	D	D	—	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校とで合同運動会が実施できないか次期計画で検討していきたい。
27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	取組み内容
B	B	B	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校や中学校では美化活動を実施している。 ・デイサービスなどで、保育園児の活動がコロナの影響で実施できなかった。 ・南天の会は継続し活動されている。
B	B	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・計画していた研修会や懇親会はコロナ禍のため自粛となった。 ・南天の会は地域に根付いた活動でPRもできている。
A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・防災無線を活用し月潟親善大使の増子ゆかりさんよりコロナ禍での熱中症対策などについてお話をいただいた。 ・健康と福祉のつどいについては計画をしていたがコロナの影響で実施しないこととした。